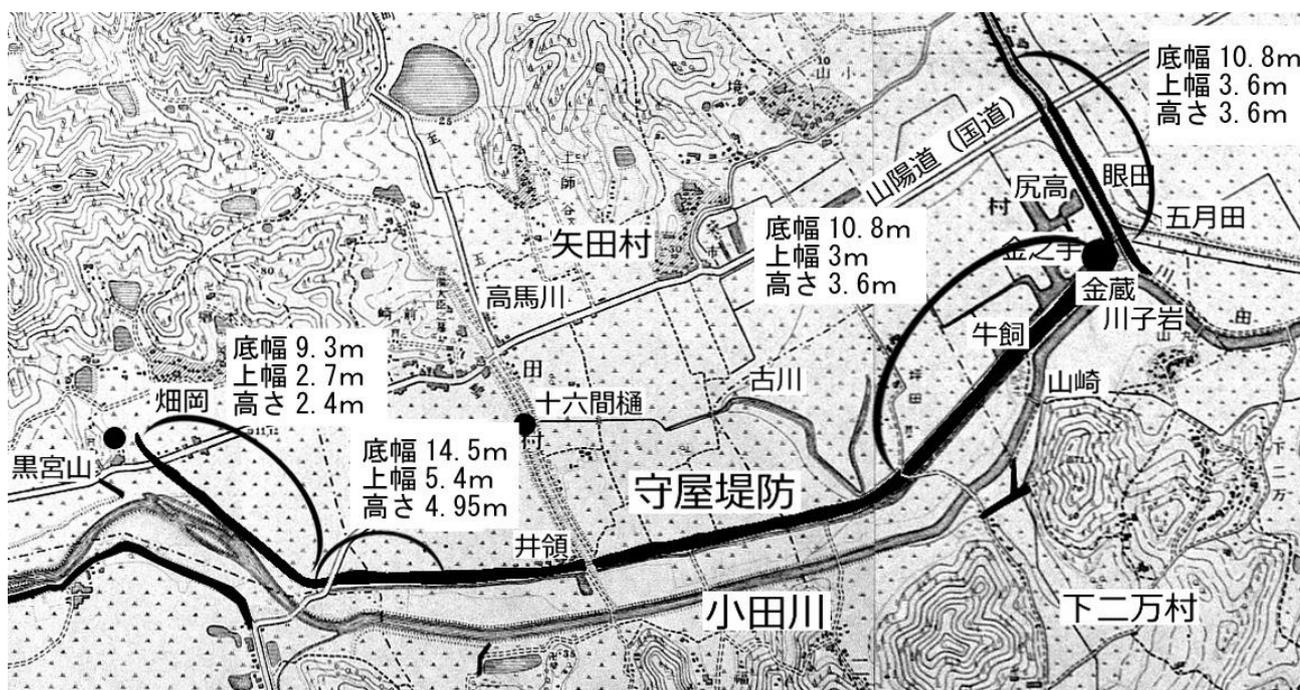


図1～3はすべて大日本帝国陸地測量部2万分1地形図「川邊村」「箭田村」（ともに明治30年測図）を基盤図とし、近世絵図・切絵図・古文書から得られた情報を書き加えたもの。

堤防位置は「小田川改修裁許図」（岡田文庫A-70／真備ふるさと歴史館所蔵）および倉敷市所蔵太田家文書5-A-9，同5-A-10，同5-B-1-①によって時代ごとの所在を確認した。

堤防名および堤防付近の名称（小字）については、『岡山県吉備郡真備町土地辞典』（国土総合地図刊行会，昭和46年。倉敷市総務課歴史資料整備室所蔵）および「道路変換ニ関スル書類入」（岡田文庫F-9-15。真備ふるさと歴史館所蔵），「下道郡切図」（岡田文庫A-69。真備ふるさと歴史館所蔵）などで場所と名称の特定を行い，図上に記入した。

黒色のラインが堤防を表している。



参考図 守屋堤防の規模（底幅・上幅・高さ。各寸法は岡田文庫A-70小田川改修裁許図／真備ふるさと歴史館所蔵に記入された数値をもとに概算したもの）



図4 西高梁川下流域（玉島・船穂・河内地区）水害関係地図

大日本帝国陸地測量部5万分1地形図「玉嶋」（明治37年測図）を基盤図に，享保六年・寛政元年の水害に関係した地名（被災地）・堤防名を書き加えた。

〇×モ